

◆夢を育み 明日が待たれる 魅力ある学校づくり◆

北教だより

茨城県県北教育事務所

令和6年1月9日(火)

第14号

電話 0294-34-0774

FAX 0294-32-0006

E-mail hokukyo@pref.ibaraki.lg.jp

◆1、2、3月の学校経営を前に

県北教育事務所 所長 小泉 一彦

本年度のまとめの時期となりました。

1月以降の教育活動の充実に向けて、学校では、様々な取組にお忙しいことだと思います。本年度も残り三か月、一人一人の児童生徒の成長を認め、励まし、前向きな気持ちで次のステップへ進んでいけるよう、教職員の関わりの充実をお願いいたします。

Q-Uアンケート、生活アンケートの結果の分析と活用を含め、児童生徒の小さなサインを見逃さないよう生徒指導の充実を引き続き推進願います。

～RPDCAのCARP～

管理職のリーダーシップのもと、今年度の職員で次年度の計画を入念にお願いします。決定している教育計画を年度途中に変更するのは容易ではなく、よりよい学校づくりへの組織的な営みが重要です。所課長訪問のまとめの資料でもお送りしましたが、学校組織マネジメント、カリキュラム・マネジメントの充実を引き続きお願いします。

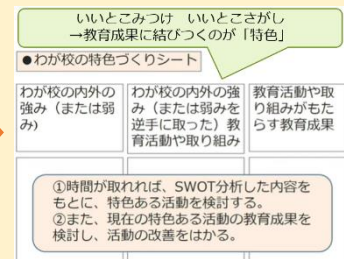
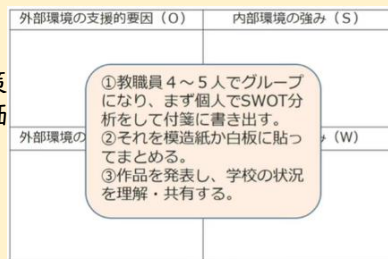
○C：本年度の取組の形成的評価

○A：評価結果を受けた改善策、充実策

○R：次年度の計画のための診断的評価

○P：次年度の計画

※SWOT分析の手法の活用が重要



遠隔教育実証研究事業ピンポイント型プログラミング研究授業

小中学校における遠隔教育実証研究事業の一環として「プログラミング教育」に関する研究授業が行われました。第1クールの滑川小学校は、「教育版マイクラフト」を活用して、修学旅行先である日光の魅力を5年生に伝える学習活動が展開されました。第2クールの諏訪小学校では、「プログラミングで生活をよりよくしよう」という単元名のもと、「マイクロビット」を活用してのプログラミング教育が実践されました。両校ともに、以下のような姿が見られ、今後の授業づくりの参考になる研究授業になりました。

- ・目的達成のための手段としてプログラミングを活用している。
- ・役割分担がなされ、児童一人一人がやるべきことを明確に把握して活動に取り組んでいる。
- ・グループの中での話し合い、教え合いが見られ協働的な学びの充実が図られている。
- ・グループ間での交流も盛んに行われ、学級全体での学び合いが見られる。
- ・児童主体の授業であり、児童の学びが「自走」している。

本事業では、専門人材講師として、放送大学客員教授の佐藤幸江先生に遠隔でご指導をいただきました。自分たちの作成したプログラミングや制作物に対する専門的なアドバイスをいただくことで、より充実した学習活動へとつながりました。



日上市立滑川小学校
教育版マイクラフトで作成した児童の制作物



日上市立滑川小学校
他の班と制作方法やプログラムについてアドバイスし合っている場面



日上市立諏訪小学校
専門人材に活用したプログラミングについてアドバイスをいただいている場面